

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFファイルに変換した後, ホームページに貼り付けてください。

学校名	北海道教育大学 旭川校	個人・ グループ名	富山 陵	作品名	ウォールナットシェルフ
-----	----------------	--------------	------	-----	-------------

## 1 製作動機

北海道教育大学教育学部旭川校 教員養成課程生活・技術教育専攻 技術分野では、毎年、大学祭にて「技術分野木工展」を開催している。専攻毎に展示をして大学祭を盛り上げるためであることも去ることながら、技術科の学生としては、自身の木工技術向上を目的に製作に取り組む。1年生から4年生まで約40人のうち、毎年約半数は出展する。私は2年次から毎年出展しており、今年はその集大成としてウォールナットシェルフを出展した。3年次以上は釘などを使わずに製作する慣習のある拘りの展示会である。また3、4年生は1ヶ月間朝から夜まで木材加工実習室に籠りきりになる。

私は、4月から技術科教員として教壇に立つ。そのために邁進してきたこの大学4年間のまとめとして、かつ、一層の木材加工技術の向上のため、本作品を製作した。

## 2 工夫点

工夫点は、大きく3点ある。

第一に、左側板のデザイン性である。本作品は、北教大旭川校技術科の学生が数十年来お世話になっている地元の材木屋から直接木材を購入し製作している。4月からの新生活で使いたいと考えており、製作段階では置き場所に拘りはないので、購入した材の寸法から考えて設計した。その際、余裕ができた木材の耳の部分左側板に置き、見た目にも良いものを製作できた。

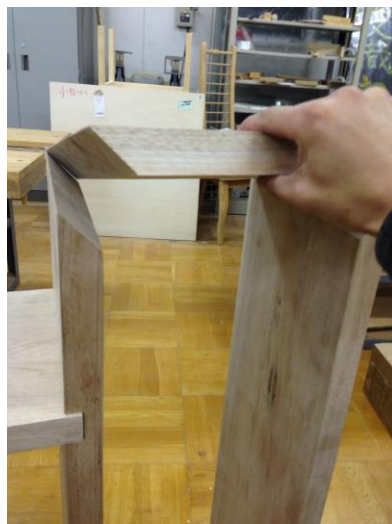
第二に、継ぎ方である。天板も、側板と同様デザイン性に拘り、留め継ぎで接合した。棚板は全て大入れ継ぎで接合し、デザインだけでなく強度もある。大入れ継ぎは鋸盤で2mm ずつ加工したが、左側板の場合は基準面が取れないためハンドトリマーで溝彫り加工をした。

第三に、塗装・仕上げである。ウォールナットは木目や木肌が美しくそのままの良さもあったが、空の美しさはまた塗装性を高め、デザインを際立たせる。本製作品はデザインへの拘りを重視したため、オイルフィニッシュ（三度塗り）で仕上げた。

使用の際は、ガラス棚板を自由に動かし、花瓶などの長い置物、小物、教科書類も置くことができる。



↑購入時の状態（2本）



↑これからビスケット溝彫り



↑「木工展」のようす